

田能村竹田

田能村竹田（1777-1835）は現在竹田市である地域に生まれ、当時最も影響力のあった日本画家の一人となった。主に掛け軸に描かれた彼の作品は、今でも高い人気を誇っている。

竹田は医者之家に生まれたが、不健康のため医業を営むことはできなかった。その代わり、漢詩と絵画の研究に力を注いだ。37 歳まで竹田で儒学を教え、その後は画業に専念し、全国を旅して画家たちと交流した。

竹田は漢詩、書、画の三部構成からなる南画を実践した。この作品は主に、当時の上流階級の家々の客間などにあった床の間に飾られる掛け軸に描かれた。

竹田は、独自の柔らかで繊細な筆致などで他の画家と一線を画している。故郷の竹田に似た風景を描き、虚構の風景を描く南画と似た作風を実施した。

この違いが、豊後国（現在の大分県）にちなんで「豊後南画」と呼ばれる新たな南画運動の誕生につながった。竹田はその思想を弟子たちに伝え、弟子たちは師の死後、その思想をさらに発展させた。豊後南画は 1930 年代まで流行した。